

先日は手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回12月の「てがたん」は1月14日(土)で「冬鳥観察」がテーマです。

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見&打ち合わせは1月7日(土)です。よろしくお願いいたします。

12月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→漁協前
- 観察日時/天気 2011年12月10日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加者 21名
- 市民スタッフ 7名(蒲田知子、須貝基康、染谷迪夫、松村定雄、水上香苗、村田富美子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 3名(塩田いづみ、染谷美紀、村松和行)

観察記録 — 12月に観察した生き物リスト—

【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ、コサギ/カモ科：カルガモ、コガモ、オナガガモ/クイナ科：バン、オオバン/シギ科：イソシギ/カモメ科：ユリカモメ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/モズ科：モズ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ツグミ科：シロハラ/ウグイス科：ウグイス/シジュウカラ科：シジュウカラ/メジロ科：メジロ/ホオジロ科：カシラダカ、アオジ、オオジュリン/アトリ科：カワラヒワ/ハタオリドリ科：スズメ/ムクドリ科：ムクドリ/カラス科：ハシブトガラス/外来種や家禽：コブハクチョウ、ドバト

【昆虫・クモ】

甲虫の仲間：ナミテントウ/ハチの仲間：ニホンミツバチ/チョウの仲間：ヒメアカタテハ、ジャコウアゲハ(幼虫)

【花】

キク科：ハキダメギク、セイヨウタンポポ、ノゲシ、ノボロギク、チチコクサモドキ/タデ科：オオイヌタデ/シソ科：ホトケノザ/アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ/ツバキ科：ツバキ(植栽)/ウコギ科：ヤツデ/クスノキ科：シロダモ

【実】

ヤブコウジ科：マンリョウ/センリョウ科：センリョウ/ツバキ科：サカキ/ニレ科：ムクノキ/ウルシ科：ハゼ/アケビ科：ムベ(植栽)

12月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「冬の植物と1年のふりかえり」でした。人間とかかわりのある植物や手賀沼の鳥を中心に観察しました。香取神社では神事や年中行事に利用される植物、水田の畦では春の七草を探しました。手賀沼ではカンムリカイツブリやコガモなど冬の鳥以外に、カワセミやイソシギなど留鳥も観察しました。



今月の案内人 染谷 迪夫さん



「神を待つ木」として平安時代から正月飾りに使われるマツ



きれいに黄葉した香取神社の入口のイチョウ



紫色に色づいたサカキの実



畑にはまだ霜が残っていました



春の七草の一つのセリ



手賀沼ではオナガガモ、コガモ、カルガモの3種のカモを観察しました



12月てがたんの観察生物とルート



ヒサカキの葉

香取神社にはサカキとヒサカキが植えられています。サカキが少なかった関東地方ではヒサカキが神事に利用されてきました。キザキザの鋸歯がある葉が特徴です。



春の七草の一つのナズナ



春の七草の一つのハハコグサ



北アメリカ原産の帰化植物チチコグサモドキ



水田の畦で春の七草探し



正月飾りに使われるユズリハ

今月の鳥 ユリカモメ (チドリ目カモメ科)

全長：♂61~76cm ♀51~57cm

夏はユーラシア大陸中緯度地方で繁殖し、冬はアフリカ大陸北部からインド、東南アジアで過ごします。ヨーロッパでは留鳥です。

日本では冬鳥として全国各地でみられ、海岸の漁港、河口や干潟、湖沼、湿田などに生息し、最も内陸の水系まで入るカモメです。雑食性で、主に昆虫や魚、死肉、果実などを食べ、地上や水面で餌を探し、餌付けにもよく慣れます。



成鳥



幼鳥

くちばしや脚の色、翼や尾羽に違いがあります



ユリカモメの分布図

分布図の色 留鳥 夏鳥 冬鳥

でたがんにご参加ありがとうございました。次回の参加もお待ちしております！